

第6回とよた絵本コンクール最優秀作品

# でろでろ

—ふるさと山をまもりたい—



え・ぶん

塩田美保子

第6回とよた絵本コンクール最優秀作品

# でろでろ

— ふるさと山をまもりたい —

え・ぶん

塩田美保子





僕<sup>ぼく</sup>が でろでろに出<sup>で</sup>会<sup>あ</sup>ったのは その日<sup>ひ</sup>が はじめてだった。

うわさでは 聞<sup>き</sup>いていた。

とうめいで キラキラ光<sup>ひか</sup>ってて

それは きれいな生<sup>い</sup>きものだって…

小川<sup>おがわ</sup>の近<sup>ちか</sup>くの大き<sup>おお</sup>な木<sup>き</sup>に 住<sup>す</sup>んでるんだって…

てんぐのうちわのような 大き<sup>おお</sup>な葉<sup>は</sup>っぱを いつも持<sup>も</sup>っててね。

はずかしがりやだから

めったに人<sup>ひと</sup>の前<sup>まえ</sup>には 出<sup>で</sup>てこないんだって。



去年の春<sup>きょねん はる</sup>

ふるさと山<sup>やま</sup>で さとしくんが でろでろを見た。

でろでろは 木<sup>き</sup>の切り株<sup>かぶ</sup>にすわって

手<sup>て</sup>を ぺろぺろ なめてたんだって。

でろでろ  
さがし隊



僕も さとしくんが 見たという でろでろに  
一度 会ってみたかった。  
「わたしも でろでろ 見てみたいな。」  
みさきちゃんも 目を くりくりさせながら言った。

僕とさとしくんとみさきちゃんは  
今年の『ふるさと山 美化登山の日』に  
こっそり抜け出して  
でろでろを さがしに行こうと 計画した。  
名づけて『でろでろさがし隊』！



ついにやってきた。

『ふるさと山 美化登山』の日。

そうそう

『ふるさと山 美化登山』っていうのはね。

僕が通っている 桃の里小学校の子どもたちが

ふるさと山に登って ふるさと山をきれいにおそうじする日。



空は 晴れわたって

ふるさと山を そうじするには うってつけの日だった。

もちろん でろでろを さがすのにもね。

僕たちは 計画どおり こっそり みんなからはなれると

小川の近くにある びっくり岩に 集まった。

「でろでろを見たのは もっと奥の方だよ。」

さとしくんは 言った。



僕たちは 小川にそって どんどんと奥へ入って行った。

歩きながら足もとを見ると あきカンが 一つ転がっていた。

「こんな山奥にも ゴミが落ちてるわ。」

みさきちゃんは あきカンを拾い上げると

持ってきた ビニール袋に入れた。

僕たちは 落ちていたゴミを拾いながら

上へ上へと 登って行った。

しばらくすると ポツンポツンと小さな雨つぶが落ちてきた。

あれ？ 雨だ…

あんなに いいお天気だったのに

いつの間にか 空は 雨雲でいっぱいだった。





山の天気は 変わりやすい。

僕たちは いそいで 近くの大きな木の穴へもぐり込んだ。

雨は なかなかやまなかった。

そのうちに みさきちゃんが 心細そうに 言った。

「ねえ みんな さがしてるかなあ。」

「うん ずいぶん 奥の方に きちゃったもんね。」

さとしくんは言った。

「今日は もう もどろうか…」

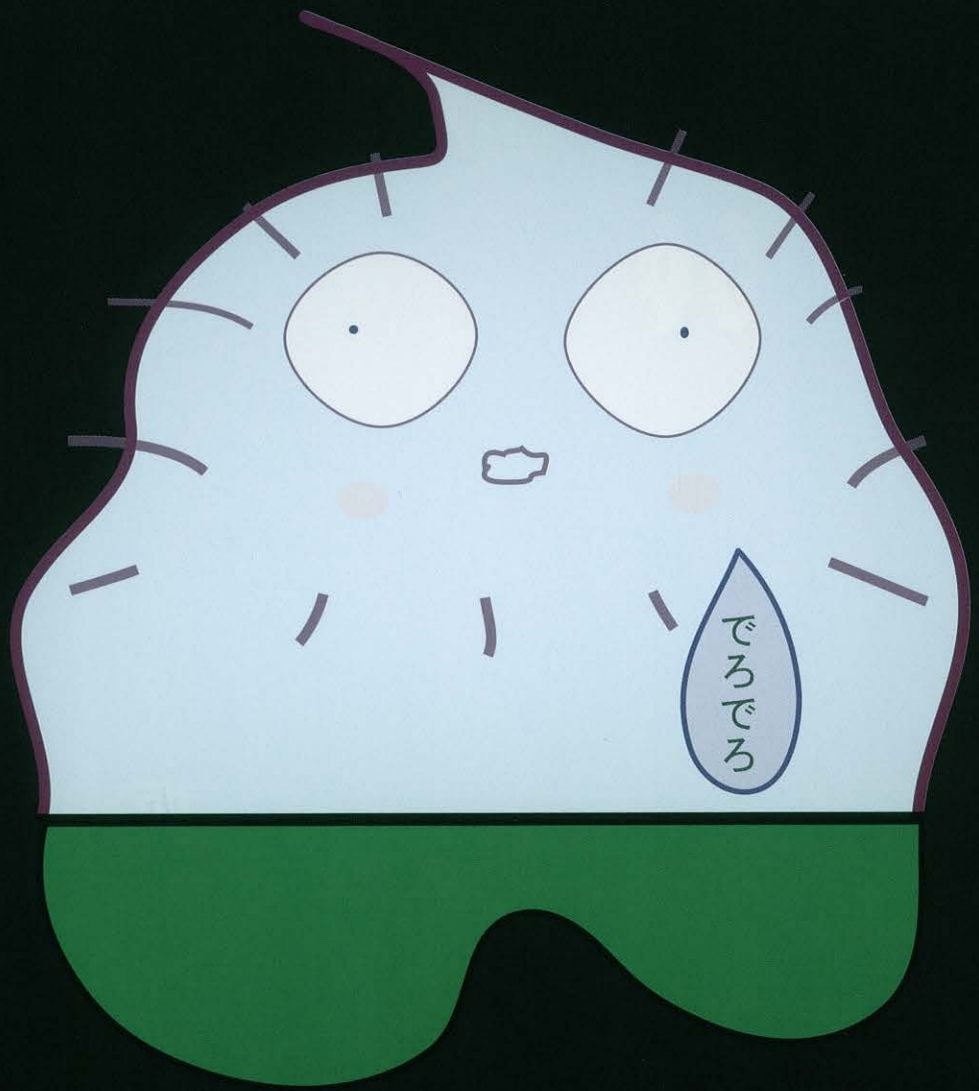
僕がそう言った時 さとしくんもみさきちゃんも

ちよつと ホツとした顔をして

「そうだね。また 天気のいい日にさがそう。」

雨がやんだら帰ろうよ。」

と 言った。



三人が話し合ってる時 みさきちゃんとさとしくんの間に  
 なんだか ぽわーとしたものが 体操ずわりをして  
 僕の方を見た。

僕は 何だろうと 目をこらして見た。

すると その ぽわーとしたものも 僕の方をじっと見た。

「でろでろ?」

でろでろは にーと笑った。

「さとしくん! みさきちゃん! でろでろ!」

僕は 二人の間を指差して 大声で叫んだ。

でろでろは びっくりしたらしく 消えてしまった。

みさきちゃんは

「大きな声をだすから びっくりしちやっただわ。」

と 言っておこった。

僕もさとしくんも でろでろが消えてしまっ て がっかりした。

しばらくすると 雨があがり

木と木の間に 虹色の光が 差し込んできた。



すると 木のかげから  
さっきのぼわーとした でろでろが顔を出し  
にっこり笑って言った。

「山を きれいにしてくれて ありがとう。」  
みさきちゃんは また でろでろが 消えてしまうと思って  
あわてて聞いた。

「でろでろは どこに住んでるの？ どうしたら会えるの？」  
でろでろは

「僕たちは 世界中のきれいな山や川や湖に 住んでるんだ。  
自然が大好きなんだ。  
みんなが地球をきれいにしたいって 思っていてくれれば  
いつでも会えるよ。」

君たちは いつも この山をきれいにしてくれてるでしょ。  
だから 僕は会いに来たんだよ。」

そう言うつと また すーと 消えてしまった。



そして 木もれ日の間から 澄んだ声で  
「目をつむって。」

その木の葉っぱから流れる水を 一粒なめてごらん。

みんなのところに おくってあげるよ。」

僕たちは 目をつむり 葉っぱから流れる水をなめてみた。

水は まるで ドロップのように甘くて いい香りがした。

気がつくとも

そこは僕たちが集まった びっくり岩の前だった。



僕たちは いそいで みんなのところにもどって行った。  
雨があがった空には 大きな虹がかかっていた。

僕たちが でろでろを見たことは 僕たち三人のヒ・ミ・ツ。  
そして 僕たち『でろでろさがし隊』は  
『ふるさと山をまもりたい隊』に 変わった。

#### 著者プロフィール

塩田 美保子

名古屋市出身 結婚後豊田市へ

出産、子育てのため名古屋市役所を退職

1999年にスタートした本の読み語りボランティアサークル「さとの声」に入会

#### 著者コメント

私は、子どもの頃「人間は、自然の中の生命あるもののおかげで生かされているんだよ」という、周囲の大人のさりげない言葉の中から物に対する感謝と大切に思う心を教えられてきたような気がします。“でろでろ”は、自然の中の生命の化身として形にしてみました。

自然を大切に思う心があればだれでも“でろでろ”に会うことができますよ。

でろでろ ーふるさと山をまもりたいー

2009年1月16日 初版第1刷発行 著者／塩田 美保子（しおた みほこ）

発行／豊田市中央図書館 〒471-0025 豊田市西町1-200

印刷／製本 東名印刷株式会社

◎ 第6回とよた絵本コンクール 主催／豊田市中央図書館 主管／とよた絵本コンクール実行委員会  
後援／財団法人豊田市文化振興財団

#### 第6回とよた絵本コンクール

2005年に開催された愛・地球博のテーマ『自然の叡智』の理念を継承し、心のこもった夢あふれる絵本を通じて、次世代を担う子どもたちに、21世紀に生きるためのメッセージを残そうというものです。



